

# 「森孝東小学校の統合に関する説明・意見交換会」の開催結果

令和2年1月22日（水）に森孝東小学校体育館で森孝中学校ブロックの保護者及び地域の方を対象とした「森孝東小学校の統合に関する説明・意見交換会」を開催しました。

当日、会場で発言していただいたご意見、アンケートに記載していただいたご意見とそれに対する名古屋市教育委員会の考え方をまとめました。

なお、ご意見の内容について、趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、原文を一部要約し、また分割して掲載しておりますのでご了承ください。

日時：令和2年1月22日（水）19：00～20：40

場所：森孝東小学校体育館

参加人数：58人（保護者33人、地域住民25人）（森孝東53人、本地丘1人、森孝西4人）

区分	森孝東	本地丘	森孝西	合計
保護者	28人	1人	4人	33人
地域住民	25人	0人	0人	25人
合計	53人	1人	4人	58人

## ◆お問い合わせ先

皆さまからのご意見やご質問については、EメールまたはFAXで受け付けています。

名古屋市教育委員会事務局総務部教育環境計画室

Eメール：a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

FAX：052-972-4176 TEL：052-972-4092

## 1 統合の必要性・学校規模の考え方に関すること

- ・人間関係がリセットされるし、統合自体は賛成。
- ・クラス替えができないのは、息苦しいと思う。
- ・計画期間が示されているが、いきいき計画としてのゴールや目標は設定しているのか。どのような状態にしたいのか。
- ・教育委員会として、クラス替えができない場合の弊害を具体的にどのように捉えているのか。
- ・なぜ統合しなければいけないかの説明がなかった。
- ・これまでの統合で、いい面だけでなく、困った点としてどのようなことがあったか。また、その問題については、どのように解決したのか。
- ・「子どもたちがいきいきと」と言っているが、今の森孝東小の子どもたちは、いきいきしていないということなのか。

- ・小規模校統合の理由やこの地域の教育課題を説明されないまま、統合を進めるのか。
- ・森孝中ブロックの3つの小学校でどのような課題が生じていて、その解決のために統合するという説明でなければ話がつながらないのではないか。
- ・なごや小のアンケートについては、マイナスの回答が想定される問いをしていない。
- ・小規模であれば、先生方も全校児童の名前や顔も覚えていてくれて、保護者との関係も良好である。
- ・そもそも少人数はそんなに悪いことなのか。クラス替えができないとどういう弊害があるのか。
- ・少人数クラスを実現するチャンスではないか。
- ・1クラスを例えば20人くらいに減らしてはどうか。もっときめ細かい教育を考えないのか。
- ・少人数の何が悪いのか。少人数のフィンランドの方が、日本よりも教育水準は高い。
- ・小規模校に通学したいという子どもを名古屋市全域から受け入れて、大きなグループが苦手な子の受け皿として活用できないか。

### 教育委員会の考え方

- ・小学校では、子どもたちが集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することが大切であると考えており、その教育効果を上げるためには、一定の学校規模が必要と考えています。
- ・教育委員会では、小学校では12学級以上を望ましい学校規模と考えていますが、国（文部科学省）においても平成27年に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」が策定され、同様の考え方が望ましいとされています。
- ・小規模校には、「学校行事で活動の場を与えやすい」、「一人ひとりの子どもにきめの細かい指導がしやすい」といったよさがありますが、その一方で、「クラス替えができないことにより人間関係の固定化が生じやすい」、「体育の球技などの集団学習、班活動やグループ分けなどに制約が生じる」、また、「指導上課題がある子どもの問題行動にクラス全体が影響を受けやすくなる」といった課題などがあります。
- ・3つの小学校が統合した西区のなごや小学校（以下「なごや小」といいます。）の子ども・保護者に対するアンケートでは、子どもたちは統合により「新しい友達ができうれしい」、「授業が楽しくなった」、「休み時間に遊ぶ友達や遊びの種類が増えた」、「行事（遠足や運動会など）で人数が増えて楽しくなった」、「たくさんの先生と話ができるのでよかった」といった声を多くいただいています。
- ・教育委員会では、森孝東小学校（以下「森孝東小」といいます。）、本地丘小学校（以下「本地丘小」といいます。）、森孝西小学校（以下「森孝西小」といいます。）それぞれの学校のよさを継承・発展させながら、子どもたちにとってよりよい教育環境にしていくため、どの学年でもクラス替えのできる規模が確保できるよう統合することが必要と考えています。
- ・なごや小の「学校統合に関するアンケート」によると、統合までに「心配はなかった」という子どもがいる一方、「学校が遠くなること」、「学校の様子が変わること」、「新しい友達ができる

のか」などの心配があったと回答した子どももあり、こうした子どもたちの気持ちを踏まえながら進めていくことが重要と考えています。

- ・なごや小では、統合に向け教職員間での情報共有・協議を進めながら、通学安全などについては保護者・地域・学校で連携していただきながら協議を行い、新しい学校づくりを進めました。なお、なごや小アンケートでは、統合し、新校舎に変わった後、多くの子どもは「心配がなくなった」と回答しています。
- ・令和元年度、本地丘小では、男子児童が1名という学級（学年）がありました。小規模校では、このような男女比の偏りが生じやすいという課題があります。
- ・3つの小学校ではそれぞれ小規模校のよさを活かしながら、保護者・地域の皆さまに支えられて学校運営が行われておりますが、子どもたちにとってよりよい学校生活を送れるよう一定の学校規模を確保する必要があると考えています。
- ・本市では、小学校1年生・2年生での30人学級、小学校3年生以上は40人学級を基準とした学級編制を行っています。統合に向けては、この基準に基づき、全学年でクラス替えが可能となる12学級以上の学校規模にしていきたいと考えています。
- ・小規模校については、小規模校としてのよさがある反面、課題も多いと考えられることから、教育委員会ではすべての小学校・中学校を対象に、小規模校の解消を図っていきたいと考えています。

## 2 統合（案）に関すること

### （1）統合相手校・統合場所

- ・森孝中での統合以外にもっと良い案はないのか。
- ・統合が仕方ないのはなんとなく分かるが、中学校まで一緒にする必要性の説明がない。
- ・小中一貫ありきの気がしてならないが、そうであれば距離を考えると森孝東小の場所での統合がよいと思う。
- ・小学校3校のみでの統合ならプラスになることもたくさんあると思う。
- ・森孝東小で小学校だけ統合すればいいと思う。「距離が～」というがそこまで重要なのか。
- ・森孝東小は大規模改造を実施してきれいにしたのだから、森孝東小で統合すればいいのではないのか。
- ・周辺の他市町村との連携や他市町村との学校選択制などは検討しないのか。

### 教育委員会の考え方

- ・森孝中学校（以下「森孝中」といいます。）の場所での統合を選定した理由は、①森孝中ブロックの小学校が全て小規模校であり、森孝東小と本地丘小の統合では12学級以上とならないこと、また森孝西小も今後、小規模校が解消される見込みがないこと。②3つの小学校の統合を検討する上で、森孝中の場所が森孝中ブロックのほぼ中央に位置しており、徒歩を基本とする通学距離が、教育委員会が目安とする概ね2km以内となることです。なお、森孝東小での統合を想定した

場合には、森孝西学区の最も遠い地点からの通学距離は2.2kmとなります。

- ・令和7年度の森孝中の生徒数は200名程度と見込んでおり、3つの小学校が統合したと想定した場合の児童数400名程度と合わせ600名程度の児童・生徒数となる見込みです。現在の森孝中の校地の中で、施設の配置や整備を工夫しながら、小学校と中学校を併設することによるよさが発揮される学校となるよう検討していきたいと考えています。
- ・教育施策については、市町村ごとの考え方にに基づき、運営予算や校舎整備、教職員の配置等が行われていることもあり、現時点で市外の学校との連携については想定しておりませんが、今後の参考とさせていただきます。

## (2) 通学距離・安全対策

- ・距離の2kmが基準というが、本当に2kmでいいのか。なぜ2kmか。
- ・通学距離1.8kmはどのように算出したのか。また、具体的にどの地点からどういう計測をして出したのか。
- ・通学距離が遠くなると通学時間が長くなるので心配。
- ・各学年の子どもの足でどのくらい時間がかかるのかを調べたのか。
- ・統合は致し方ないと思うが、交通量の多い道路を横断することになるため、安全性を確保してほしい。
- ・現在の森孝中の前の道路は、交通量が多い。
- ・統合したら交通量の多い国道が主な通学路になるので、可能な限り歩道の拡大をしてほしい。
- ・登校は集団だが、下校は一人ひとりですると思うので、統合して学校が遠くなると心配。
- ・通学時の安全確保をはじめ、統合に伴う様々なリスクをどのように捉えているのか。何かあった場合は、誰が責任を取るのか。

### 教育委員会の考え方

- ・教育委員会では、通学は徒歩を基本とし、小学校の場合の通学距離は概ね2kmを目安としています(国は小学校4kmとしています)。市内には2kmを大きく超えて通学する児童の在籍する小学校もありますが、ほとんどの小学校において2kmという目安の範囲内に収まっていることから、設定しました。
- ・当日の配布資料では、「最も遠い地点からの距離」として、森孝東学区、本地丘学区それぞれから1.8kmと記していますが、各学区の一番遠い地点から森孝中までを計測したものです。実際に子どもが歩いてかかる時間については計測していませんが、なごや小では、統合後の通学距離は最大で1.6km、子どもの足で40分かかるとのことです。通学時間の目安として、森孝東小の分団登校では、集合場所から学校までおよそ1kmの距離を15分ほどかけて登校していました(本年1月、晴れの日でした)。
- ・統合により通学距離が長くなり、通学路もこれまでとは異なることとなりますので、子どもた

ちへの負担に配慮することや、安全面での対策を講じることは大変重要であると考えています。

- ・通学における子どもへの負担という点では、現在も各学校で登下校時の荷物の問題や熱中症への対策に取り組んでいますが、それぞれの取り組みを持ち寄りながら、新しい学校での対策について検討したいと考えています。
- ・通学路上の交通安全の確保については、学校での安全指導はもとより、警察・土木事務所など関係行政機関との連携や、家庭（保護者）・地域のご協力もいただきながら取り組みたいと考えています。
- ・なごや小の場合には、次のような安全対策の強化を図りました。①狭い歩道へのガードパイプの設置、②横断歩道の設置、③注意表示の設置、④歩行者先出信号の設置、⑤自転車専用レーンの設置、⑥青信号の時間延長、⑦道路へのカラー舗装、⑧通学練習会の実施
- ・不審者等に対する登下校時の安全確保として、現在も「子ども安全ボランティア」による見守り活動や、子どもが身の危険を感じた時に駆け込める「子ども110番の家」などがあります。こうした取り組みを踏まえながら、学校・家庭（保護者）・地域の皆さまとともに検討していきたいと考えています。
- ・通学については、なごや小のアンケートでも、当初、学校が遠くなることを心配していた子どもはいましたが、統合し、新校舎に変わった後は、多くの子どもは「心配がなくなった」と回答しています。回答の中には「学校まで遠くなったけど、遠くなった分だけ友達と話せるから楽しいです」という子どもの声や、「学校が遠くなって友達とおしゃべりして、とても楽しそうに家に帰ってくるようになった」という保護者の声もありました。なごや小の事例も参考にしながらこの地域の道路状況等を踏まえ、子どもたちが安全に、また安心して通学できるよう検討していきたいと考えています。

### （3）小中併設の学校運営

- ・小中一貫を導入するという事は、学区制をなくすことになるのではないのか。
- ・統合自体は賛成であるが、小中一貫教育は疑問。行事やPTA活動など、森孝中ブロックでうまくやっていけるのか。
- ・小中一貫教育校との話であるが、具体的な時期や中身は決まっているのか。
- ・小中同じ校舎で住み分けができるのか。
- ・小中同じ場所でトラブルにならないのか。
- ・チャイムや時間割など授業の進め方は決まっているのか。
- ・小中一緒に生活するという事であるが、休み時間の捉え方がちがう。小学校は遊ぶ、中学校は次の授業の準備。そういった中で小学生の遊ぶ声を中学生が気にしないのか。
- ・給食はどうなるのか。

- ・中学校にも給食を出してほしい。スクールランチが不評である。
- ・もう少し具体的なビジョンが知りたかった。笹島小中の事例がもっと知りたかった。
- ・なごや小のアンケートの資料があるが、これは小学校の統合の場合のアンケートである。統合案である小学校と中学校の併設している学校のアンケートを出してもらいたい。

### 教育委員会の考え方

- ・統合（案）では、小学校と中学校の併設という形でお示しましたが、小中併設の場合には、同じ教育目標のもとに小学校・中学校それぞれの教職員が9年間を見通し、連携しながら教育活動を行う学校としていくことを想定しています。名古屋市では、笹島小学校・笹島中学校（以下、あわせて「笹島小中学校」といいます。）がこのような形で運営されており、「小中一貫教育校」と呼んでいます。
- ・笹島小中学校では、校長は小学校長・中学校長を兼務していますが、それぞれの学校に教職員組織があり、連携しながら学校運営が行われています。小学校・中学校それぞれの教育課程があり、小学校の卒業式、中学校の入学式もあります。（この他に、修業年限を9年とする「義務教育学校」という校種の学校もありますが、現在名古屋市立学校にはありません。9年間子どもたちが学校生活を送るという点では小中一貫教育校と似ていますが、1つの学校であるため途中で卒業式や入学式は想定されていません。）
- ・併設では、小学校・中学校がそれぞれ設置される形ですので、通学区域がなくなるというわけはありません。
- ・笹島小中学校では、小学校・中学校は同一校舎です。普通教室は小学校低学年・高学年・中学校とフロアを分けて利用しています。職員室は一つとなっており、小学校・中学校それぞれの教職員が情報共有を図りながら連携し、指導を行っています。同校では、①小学生、中学生の時間割が違うため、小学生はチャイムで行動し、中学生は時計を見ながら行動する（学校によっては、チャイムを鳴らし分けているところもあると聞いています。）、②小学生と中学生と一緒に学校生活をする上で、時間割の違いなどもあるが、中学生は小学生がいることを前提としながら考え、行動できている、③運動会は小中合同で実施しているが、生徒会や集会などは小中で分けるなど、子どもの発達段階や教育上の効果を考慮しながら教育活動を行っている、④PTAは小中で一つの組織となっている、という形で学校運営が行われています。
- ・小学校の統合を契機に9年間の子どもたちが通う学校として、今年度開校した他都市の義務教育学校に聞いたところ、学校生活の中で小学生に当たる学年の子どもが中学生に当たる学年の子どもから良くない影響を受けるようなことはなく、むしろ上の学年の子どもが小さい子の面倒をよく見てくれているとのことでした。また、仮に指導上の必要が生じた場合にも、指導に当たりやすい体制であるとのことでした。
- ・3つの小学校と森孝中の併設による小・中学校において、どのような学校運営・PTA活動等を行っていくのかについては、3つの小学校・森孝中の教職員や保護者の皆さま等とともにステッ

プ5において具体的に検討していきますが、小中併設のよさが発揮されるような学校づくりをしていきたいと考えています。

- ・中学生への小学校方式での給食の提供については、笹島小中学校（小学生は給食、中学生はスクールランチ）や他都市の状況を踏まえ、子どもたちや保護者の意見も伺いながら、今後検討していきたいと考えています。
- ・笹島小中学校を始め小中併設における学校運営についてさらに詳しく知っていただけるような情報提供のあり方は、今後検討したいと考えています。

#### （４）施設整備

- ・学校の整備はどうか。校舎は新しくなるのか。小学生・中学生は別の校舎になるのか。
- ・小中同じ敷地か、同じ校舎か。
- ・統合した場合、学校は建て替えられるのか。
- ・音楽室や体育館などの小学校と中学校の施設は共同で使用するのか、それとも別々に使用するのか。
- ・森孝中の敷地は狭い。小中併設ができるのか。敷地面積を増やすつもりはないのか。
- ・病気になった子どもを連れて学校に行かなければいけない時もある。その場合に車を使うので、学校に保護者が使える臨時駐車場を造ってほしい。
- ・体調不良のときなどは、車で送迎できるようにならないか。
- ・森孝中でも今のような車で送迎できるスペースが確保できるのか。
- ・整備期間中の中学校の生活がどうか心配である。
- ・校舎の建て替え過程について、子どもに負担がないようにしてほしい。

#### 教育委員会の考え方

- ・統合（案）では、現在の森孝中の敷地を最大限活用し、効果的な空間利用を含めた整備手法を検討したいと考えています。このため、現在の校舎、体育館、格技場を含めた大きな整備工事が必要と考えています。整備に当たっては、保護者の送迎時の駐車への対応に関するご意見も参考にさせていただきます。
- ・どのような校舎配置とするのか、体育館や音楽室などの特別教室の利用形態をどうするのかについては、これから検討した上で、皆さまにお示ししたいと考えています。
- ・他都市の学校や笹島小中学校では、跡地となった小学校を中学校部活動等のため第二グラウンドとして利用している例もあります。こうした事例も参考としながら、施設整備の検討をしていきたいと考えています。
- ・整備工事については、子どもたちの安全確保を第一に考えるとともに、中学生の学校生活への負担ができる限り小さくなるよう配慮しながら検討したいと考えています。

### 3 取り組みの進め方・スケジュールに関すること

- ・今回の統合案（森孝中での小中併設）に至るまでの経過が知りたい。
- ・ステップ1からステップ3までにかかる期間はどのくらいか。
- ・いつまでに何をやるのかを明確にしてほしい。
- ・今までの統合事例・なごや小ではどのくらいの期間で進めたのか。
- ・小中一緒での生活や統合までのスケジュールについて、笹島の事例ではどうだったのか。
- ・統合は決まったことなのか、意見を聞いて変えることもあるのか、今後の予定はどうか。
- ・統合は決定なのか。
- ・反対意見が出た場合、統合が白紙になる場合はあるか。
- ・子どもが少なくなったら、また統合されるのか。
- ・教員や保護者、子どもの声を聞いて統合の是非を決めてほしい。
- ・説明・意見交換会を要約すると「何も聞く気はありません。教育委員会が決めることで、住民が何を考え、何を言おうと関係ない」と聞こえた。
- ・説明会の時間が短いため、十分に納得のいく答えが聞けなかった。
- ・今日の会の時間設定については、遺憾である。十分な時間がとれるような時間設定をすべきである。
- ・今日出た意見や検討結果はどのように回答してくれるのか。もう一度、会を開催するのか。
- ・もう少し詳細な資料を貰えると検討ができる。
- ・地域への情報なので、学区内の施設（保育所、幼稚園）にも情報がほしい。
- ・今回は統合の説明会だが、そもそも教育委員会では子どもを増やすための施策は考えないのか。

#### 教育委員会の考え方

- ・スケジュールは、小中併設の整備手法等の内容が決まった段階（ステップ3）でお示ししたいと考えていますが、小学校3校を統合したなごや小では、検討開始から新しい校舎で子どもたちが一緒に生活を始めるまでに6年ほどかかりました。笹島小中学校は、中学校の場所で、小学校2校の統合校と中学校を併設整備していますが、開校までに6年ほどかかっています。
- ・今回の説明・意見交換会はステップ1で実施したのですが、ステップ2において学識経験者等の意見を聞くプロセスを経た後、ステップ3（校舎等の整備計画やスケジュールを含む個別プランを保護者・地域の皆さまへ説明・協議する段階）を、令和2～3年度に実施できるよう検討していきたいと考えています。
- ・ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画では、小規模校をクラス替えのできる望ましい学校規模にしていくことを目指していますが、将来的に子どもの数が増え、クラス替えのできる規模となる可能性のある学校については、推移を見守り、取り組みの必要性を見極める必要があると考えています。こうした中で、森孝中ブロックの3つの小学校は今後も小規模の状態が続いていくと見込んでおり、森孝東小、本地丘小ではそれぞれ単学級の状態が解消する見通しももてないため、小規模を解消するため、3つの小学校の統合を進める必要があると考えています。

- ・統合は、クラス替えのできる学校規模を確保していくことを目指しています。森孝東小、本地丘小の統合では、小規模校の解消が難しい状況です。このため、クラス替えのできる学校規模が安定的に継続できるようにするため、3つの小学校の統合（併せて中学校との併設）案をお示しました。
- ・学校の統合は、子どもたちにも重大な関心事ですので、子どもたちの心のケアに努めるとともに、まずは保護者や地域の皆さまのご意見をお伺いし、具体的に検討が進む中で、新しい学校づくりに関するアイデアを子どもたちから募集したいと考えています。
- ・新しい学校づくりにおいて、子どもの意見を取り入れることは大切であると考えています。校名・校章・校歌や通学時の安全確保など統合決定後の新しい学校づくりの段階（ステップ5）では、保護者・地域・学校と協議し、子どもたちが関わっていくことについて検討したいと考えています。新しい学校づくりにおいては、それぞれの学校の教職員や保護者の間での情報共有と協議も行いながら、よりよい学校となるよう検討していきたいと考えています。
- ・説明・意見交換会は、森孝中ブロックの3小学校1中学校のどの会場でも参加していただけるようにし、4会場で夜間と土日を組み合わせ実施しましたので、森孝東小では夜間の時間設定となりました。ご参加いただけなかった方もみえたということについては、申し訳なく思っています。
- ・説明・意見交換会では時間が限られていたこと、またご参加いただくことができなかった方に向けて、「たより」を作成しました。保護者の方へは学校を通じての配付、地域の皆さまへは地域回覧をさせていただくとともに、市公式ウェブサイトでも情報提供いたします。なお、市公式ウェブサイトでは、今後とも随時、情報更新を行っていきます。
- ・これからさらに検討を進め、統合に向けた具体的なプランをお示ししたいと考えています（ステップ3）。その際には、今回と同様に説明会を開催し、ご意見をお伺いしながら進めたいと考えています。
- ・小規模校では、新1年生の人数が、前年度5歳児であった子どもの人数を下回ることが多く、結果的に児童数が増えていかないという傾向があります。教育委員会では、小規模校を解消し、子どものよりよい教育環境を整備することにより、児童数の確保に向けて取り組みを進めていきたいと考えています。

#### 4 地域に関すること

- ・学区や学区活動は従前のままというが、学校が1つになってしまうのに従前のおり運動会等の行事を行うことができるのか。
- ・学区はそのままとのことであるが、新しい学校区として3学区で子どもたちは自由に遊ぶようになるのか。もしそうなら、遊びに行く範囲が広がって心配。
- ・今は、学区で子どもたちの通学見守りをしている。そういった活動は3学区でもやっていくことになるのか。

### 教育委員会の考え方

- ・学区組織について、これまで統合した3つの事例では、いずれも従前と変わらず地域活動が行われています。それぞれの学区での行事は、統合後もこれまでどおり行われている例が多いと聞きますが、統合を契機に学区それぞれのお考えを踏まえながら合同で消防訓練を行うようになったところもあると承知しています。いずれの場合にも、地域活動において不都合はないとのこと。
- ・3つの小学校が統合することにより、子どもの活動範囲が広がることへの対応については、ステップ5の新しい学校づくりの段階において、3つの小学校や保護者・地域の皆さまとともに検討していきたいと考えています。
- ・なごや小では、子どもを守るために、地域の方の協力で交通指導が行われています。今後、新しい学校づくりに向けて協議を行う段階で、保護者・地域の皆さまとともに検討したいと考えています。

## 5 跡地に関すること

- ・跡地について、「防災拠点等、地域に必要な機能に配慮しながら」と説明があったが、災害時に避難所になる体育館は必ず残すのか。また、校舎や運動場はどうなるのか。
- ・跡地について、漠然として具体性に欠けていてイメージできない。
- ・これまでの跡地の学校は、具体的にどのように活用されているのか。
- ・これまでの統合校は中心部なのでそのような活用ができたと思うが、郊外でも同じように跡地の活用ができる見込みなのか。
- ・今後の少子化対策のためにも、子どもの過ごしやすい環境を作ってほしい。跡地には、安心して遊べる公園や子どもがたくさん入れるようなマンション等を視野に入れてほしい。
- ・空き校舎が管理なしに放置されることが、衛生面、治安の面からたいへん不安。どの施設を活用していくかをはっきりさせてほしい。

### 教育委員会の考え方

- ・統合により使用しなくなる校地や校舎は、防災拠点等、地域の防災機能に配慮しながら、余剰となる資産の有効活用を全市的な視点で検討します。跡地となった旧施設の管理を含め、地域の皆さまのお声も伺いながら、検討したいと考えています。
- ・これまでの学校跡地は、インターナショナルスクール（西区の旧江西小学校）、会議室、シェアオフィス、イベントスペース等（旧那古野小学校）、コミュニティセンター等（中村区の旧新明小学校）、私立中学校（旧六反小学校）、中村区役所等複合庁舎（予定）（旧本陣小学校）、民間保育園及び公園、地域住民利用施設（予定）、サービス付き高齢者向け住宅（予定）等（旧亀島小学校）となっています。

- ・これまで統合により使用しなくなった校地や校舎は、いずれも指定避難所等となっており、地域の防災機能も確保されています。

## 6 その他

### (1) 教職員の状況等

- ・現状の教職員の状態・状況を知りたい。また、統合後にどうなるのかも知りたい。
- ・子どもや保護者のアンケートは示されたが、教員のアンケートがあれば教えてほしい。

#### 教育委員会の考え方

- ・統合する際には、森孝東小、本地丘小、森孝西小の子どもや保護者・地域等を理解した教育が引き継がれるよう教職員を配置したいと考えています。
- ・望ましい学校規模となった場合には、小規模校であった頃と比較すると校内の教職員数が増えるため、例えば校務の事務分担はより多くの教職員で分担できるようになります。また、学年が複数学級となれば、学年ごとに準備が必要となる遠足や校外学習などの取り組みを担任同士で分担して計画・立案したり、実施したりすることができるようになります。
- ・運動会や学芸会・作品展などの学校全体の行事においては、より人数の多くなった教職員がそれぞれの役割を分担することで、小規模校の頃よりも負担軽減を図ることができるようになります。
- ・小規模校では、事故・ケガなど緊急時に対応することのできる教職員が少ない状況ですが、そうしたことも解消されます。
- ・統合したなごや小の例では、平成 26 年度に当時単学級であった江西小学校、那古野小学校の教員はそれぞれ 11 人でしたが、この 2 校と幅下小学校が統合して開校したなごや小では平成 29 年度の教員数が 21 人となり、多くの教職員で協力分担しながら、教育活動・学校運営を行うことができるようになりました。
- ・小規模校の教職員からは、「子どもたちの人間関係の固定化や、教員一人あたりの校務の負担などを日々感じている」、「単学級の場合、運動会や様々な行事の時にクラスの中で常に半分に分かれないといけないというのは、子どもたちにとってクラスで団結することがないので少しかわいそう」といった意見がありました。
- ・統合においては、学校の移転や新しい学校づくりに伴う事務などが発生し、教職員の負担となることが考えられますので、人的配置を含め学校現場の負担軽減に努めたいと考えています。

## (2) 特別支援学級・トワイライト・学童保育

- ・統合した場合、現在の特別支援学級はどうなるのか。
- ・統合後に現在各校にあるトワイライトや学童がどうなるのか。統合によって一つになってしまうのか。
- ・トワイライトスクール等の設置予定について早めに決定して、情報提供してほしい。
- ・学童が継続して運営される場合は、民生子ども課と連携しながら支援してほしい。
- ・森孝東学童は移転先を探してきたが、見つからないためマンションの一室で保育している。

### 教育委員会の考え方

- ・現在、3つの小学校（中学校）において設置されている特別支援学級や、通級指導教室については、統合校にも引き継ぎ、設置するよう検討します。
- ・トワイライトは小学校内を実施場所としていますので、現在3つの小学校それぞれで実施されているトワイライトは、統合校で実施されることとなります。
- ・学童保育については、学校統合後も現在と同じ単位での活動が可能であることを関係部署に確認しています。
- ・統合を進めるにあたっては、子ども青少年局や区役所に情報提供を行いながら、連携していきたいと考えています。